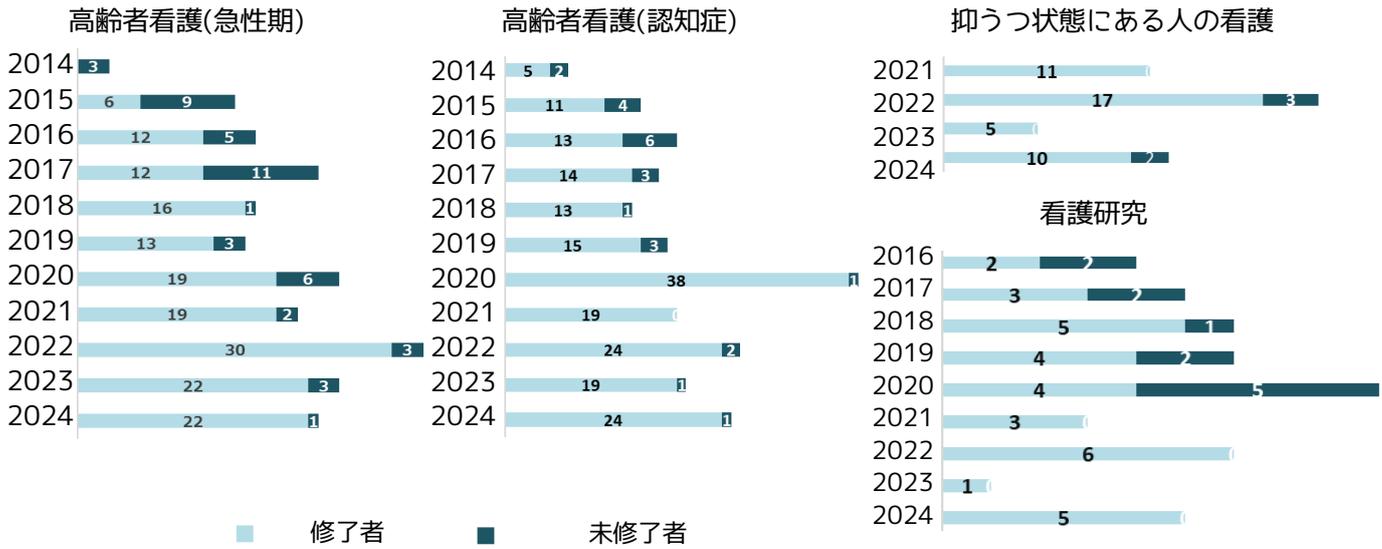


地域ケアスキル・トレーニングプログラムの修了者数と所属施設分類

ベーシック・プログラム

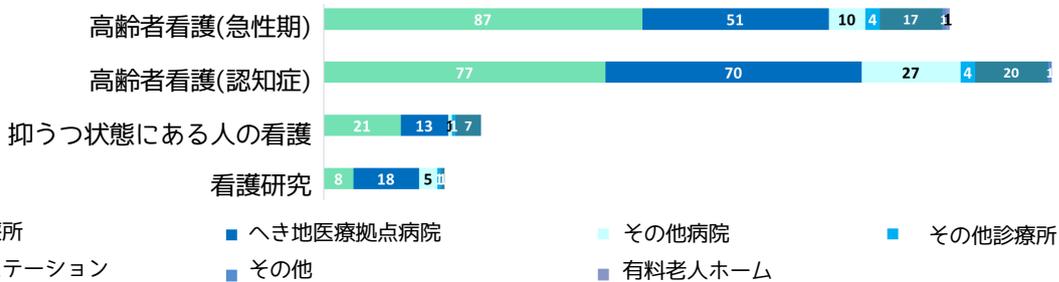
ベーシック・プログラムの受講者数と修了者数



ベーシック・プログラム修了者累計

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	計
高齢者看護(急性期)	0	6	12	12	16	13	19	19	30	22	22	171
高齢者看護(認知症)	5	11	13	14	13	15	38	19	24	19	24	195
抑うつ状態にある人の看護								11	17	5	10	43
看護研究			2	3	5	4	4	3	6	1	5	33

ベーシック・プログラム科目修了者の所属施設分類別人数



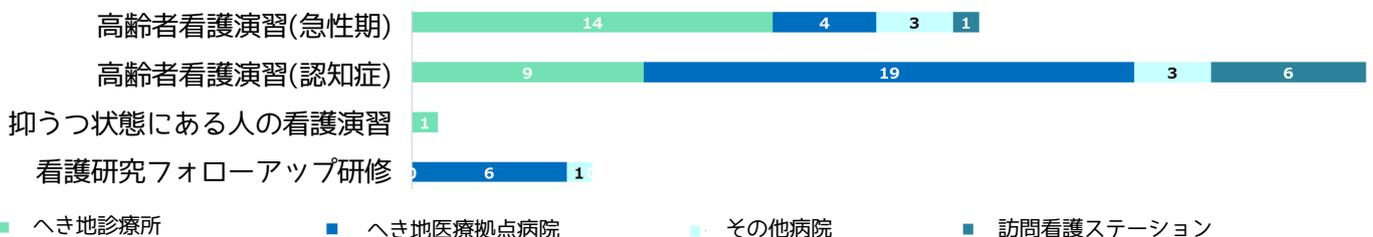
フォローアップ・プログラム

フォローアップ・プログラム修了者累計

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	計
高齢者看護(急性期)	4	2	2	0	4	3	3	3	2	23
高齢者看護(認知症)	4	4	3	0	5	7	6	4	5	38
抑うつ状態にある人の看護演習									1	1
看護研究		1	0	0	1	2	1	1	1	7



フォローアップ・プログラム科目修了者の所属施設分類別人数



地域ケア実践看護師のコンピテンシー



1 ICT等による新たな学習方法を通して学習スタイルを拡大し継続する力

ICT等により学ぶ方法の機会を活かして、新たに学びはじめるきっかけをつくる
看護実践者としての行動の意味を内省する
看護実践を批判的に評価し疑問をもつ
利用可能な最善のエビデンスを用いてケアに活かす
ICT等により学ぶ方法の機会を活かして、地域の看護師とのネットワークをつくる

2 地域で培われた対象の価値観・関係性を包括的に把握する力

地域で培われた対象者とその家族の価値観を受け入れる
看護師自身がその地域で暮らす住民の一人として、対象者とその家族との距離間や関係性の持ち方を考慮する
地域で暮らす対象者が持つ関係性を踏まえて生活に密着したケアを行う
地域住民が自らの健康管理を適切に行えるよう支援する

3 地域内外の資源を調整し、工夫する力

地域内の資源の特徴を活かし対象者を最適な健康状態へと導く
地域外の資源の特徴を踏まえ、対象者のヘルスケアニーズに適した資源利用の方法を調整し、工夫する
地域内外の資源へのアクセスの課題を認識して、調整し、工夫する

4 対象者が地域で暮らし続けるためのヘルスケアチームづくりおよびチームを育成する力

日頃から関係者との距離が近いという地域の強みを活かして、ヘルスケアチームの一員として積極的にチームとの関係性をつくる
ヘルスケアチームのリーダーとして、個々のメンバーの能力を活かすために働きかける
ヘルスケアチームのリーダーとして、自身の実践力を磨くための方法を見出し、自己研鑽する
対象者の個別ニーズに必要なネットワークをつくりケアを展開する

5 医師との協働により隙間のない医療体制を創り上げる力

医師の診断に役立つ正確で的確な報告をする
地域の医療体制を踏まえて、対象者を他の医療機関につなぐために必要な判断や的確な対応をする

地域ケア実践看護師と医師との協働のあり方

地域医療支援病院、へき地医療拠点病院、へき地診療所の受講者14人、管理者（医師の場合もあり）11人の医師との連携
または役割分担の必要性を感じる点や課題、それらに必要な知識やスキルについてのインタビューから

必要条件

当該地域の人々の家族状況・生活状況、価値観等の共有
・地域の健康課題の共有

双方の情報や考えも含めて共有するためのコミュニケーション
(アセスメントや臨床判断)

自らの実践力を相手に明示し役割分担を調整

看護師

医師

治療・ケア方針の共有に基づく実践
双方の役割をサポートし合う・補い合う

対象

特に
・医師が不在で対象を待たせてしまう
・緊急時の診療支援等

対象との橋渡しの役割

当該地域内外のメディカル・スタッフ

基盤 ◆相互の信頼 ◆相手を認め合う

医療者としての育ち合い・高め合い

目指すところ

対象はもちろんのこと、家族や周囲の人々の苦痛を最小限にする

対象、家族、周囲の人々が受け入れられる方法で療養生活を送ることができる